

二井知事を囲み

21世紀パワーアップサミットを開催



長門市・大津郡3町の広域圏で、地域の抱える課題について自由に討議を行うと「地域政策懇談会(21世紀パワーアップサミット)」が6月2日、三隅町香月美術館で行われました。

出席したのは、二井知事をはじめ藤田市長、大津郡3町長、住民代表8人で、地域の特性やアイデア・知恵を生かした政策を推進するための意見交換が行われました。

◎テーマ

- 「豊かでうるおいのある圏域づくり」
- ① 地域の特性を生かした魅力ある観光地づくり
- ② 若者の定住する圏域づくり

住民代表から出された提言のいくつかを紹介します。

○ 第一次産業における後継者不足の現状については抜本的に考えていく必要がある。若者が定住する要因を作っていくことが大切。

○ 若者が健全に集える場所が必要。文化ホールができるが、同時に遊べる場所を作れば憩いの場となるのでは。

○ 広域でサイクリングやドライブ、ウォーキングコースを設定し、花木を植えたり途中に文化財などの説明板や道の駅を設ければ、住民も学習でき観光客も文化に触れることができると思う。

○ 子どもを取り巻く環境を第一に考えてほしい。

地域の人が憩える場、子どもが集える場、子ども達がワクワクするような施設を。

○ 観光客は家族、少数グループが中心で多様化してきているのに対し、観光施策は行政単位から脱していないのでは。もっと広域的に考える必要がある。

提言に対し、二井知事は「長門・大津地域には自然があり、観光資源も豊富です。広域的に、しかも行政のみでなく地域住民が連携しながらこの資源をいかに活かし、発展させていくか考えていく必要があります。人口定住については、若者定住対策を行ってきましたが、なかなか効果が上がらず、モデル化、重点化が必要だと思えます。地域づくりに熱心に取り組む地域には県も支援していきたいと考えます」と述べました。

食用廃油のリサイクル

「石けん」をつくってみませんか

天ぷら等を使う食用油は、私たちの生活に欠かせないものです。しかし、使用後の廃油は、その処理をきちんとしないと川や海を汚す大きな原因となります。

☆材料

- 食用廃油2.7㍓(約1升5合)
- カセイソーダ450㍓(500㍓入りで薬局で販売)

(注) カセイソーダは劇物なので直接手で触ると危険です。

食用廃油の有効利用として石けんをつくる方法もあります。そのひとつとして「プリン石けん」の作り方を紹介します。あなたも作ってみませんか。

- 一斗缶・温度計
- 混ぜる棒(長さ1m位)

◆問い合わせ

石けんの使用をすすめる会

☎22895

① 廃油とご飯またはうどんを入れ、80度まで熱する

② 火から下ろしてカセイソーダを入れる

③ 熱湯をゆつくり入れる

④ 先にかき回す(はねしておく)

⑤ 一日おきに熱湯をつぎたしよくかき回す

⑥ 缶に一杯になったらフタをして家の中に3週間おく